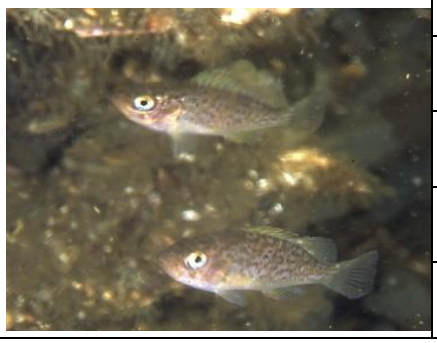
魚類

No 1



生物名	メバル
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 カサゴ目フサカサゴ科
発見頻度	★★★★☆
職員のコメント	磯、防波堤で釣れるのは黒メバル、水深のある沖合いの船から釣れるのは赤メバルと呼ばれています。海岸近くの海藻が多い岩礁域に群れをなして棲息します。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No 2



生物名	シマイサキ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 スズキ目シマイサキ科
発見頻度	★★★☆☆
職員のコメント	釣ると浮き袋を収縮させてグーグー鳴きます。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No 3



生物名	マハゼ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 スズキ目ハゼ科
発見頻度	★★★★★
職員のコメント	通常、マハゼは1年で成熟し、産卵して生涯を終えますが、2年で成熟する成長の遅い群も存在します。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No 4



生物名	アカエイ
分類	脊椎動物門軟骨魚綱 エイ目アカエイ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	尾のトゲに毒を持っています。このトゲのことを尾棘（びきょく）といいます。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No　　5



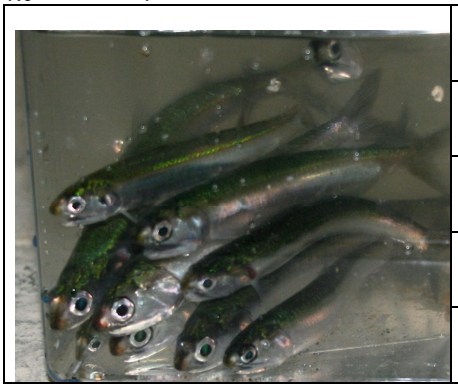
生物名	イシガレイ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 カレイ目カレイ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	小さくても一目でカレイと分かります。カメレオンのように周囲と同化する擬態の能力が優れていることでも知られています。
備考	

No　　6



生物名	ボラ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 ボラ目ボラ科
発見頻度	★★★★☆
職員のコメント	干潟では幼魚の群れが多いです。水の汚染にも強く、都市部の港湾や川に多く生息します。
備考	

No　　7



生物名	カタクチイワシ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 ニシン目カタクチイワシ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	カタクチイワシは天敵から身を守るために密集隊形を作り、群れの構成員全てが同調して同じ向きに泳いで敵の攻撃をかわします。
備考	

No　　8



生物名	ウキゴリ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 スズキ目ハゼ科
発見頻度	★★★☆☆
職員のコメント	河川の中流域から下流域にかけての流れの緩やかな淵や湖沼に生息します。ハゼ類には珍しく、水中に浮かんでいることがあり、この名がつきました。
備考	

No　　9



生物名	スズキ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 スズキ目スズキ科
発見頻度	★★☆☆☆
職員のコメント	昼間はあまり動きませんが夜になると動きだします。食性は肉食性で、小魚や甲殻類などを大きな口で捕食します。
備考	

No　　10



生物名	ソウシハギ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 フグ目カワハギ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	体色は、灰色の地に不規則な青色線が散在しています。幼魚の体色は緑色で、海藻の間に倒立することで擬態しています。
備考	

No　　11



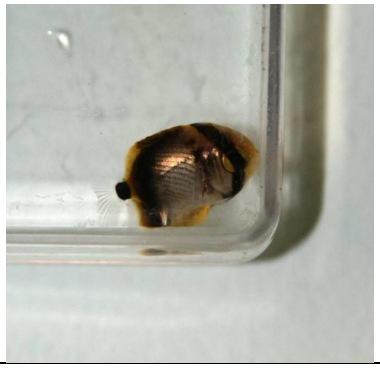
生物名	ギマ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 フグ目ギマ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	成体で20センチほど、最大でも約30センチと小型の海水魚で、食性は雑食性。甲殻類・貝類・ゴカイ類などを、頑丈な歯でかみ砕いて捕食します。
備考	

No　　12



生物名	シイラ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 スズキ目シイラ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	成長すると2mになることもあります。群れを作って俊敏に泳ぎます。流木などの漂流物の陰に好んで集まる性質があります。
備考	

No　13



生物名	アケボノチョウチョウウオ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 スズキ目チョウチョウウオ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	横浜港内ではあまり見かけることのない魚です。冬季に水温が低くなるにつれて見られなくなり、夏になるとまた黒潮に乗って本州沿岸でみられます。
備考	

No　14



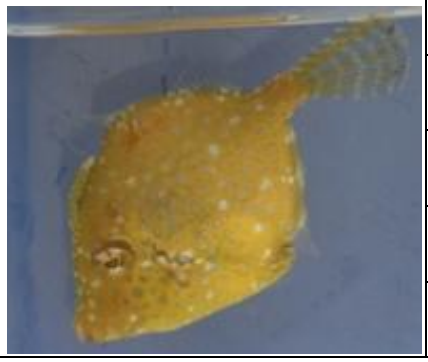
生物名	ダツ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 ダツ目ダツ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	サンマと似ていますが、鋭い歯があります。日本のダツ類は浅い海に生息するものばかりです。
備考	

No　15



生物名	マアナゴ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 ウナギ目アナゴ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	横浜港内の確認は初事例となりました。昼間は底質に潜って休み、夜になると泳ぎ出て獲物を探します。
備考	

No　16



生物名	アミメハギ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 フグ目カワハギ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	体は強く側扁(そくへん)し、円形に近いです。全長6センチメートルどまりで、カワハギ科のなかでは最小とされています。
備考	

No　17



生物名	クサフグ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 フグ目フグ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	よく見られるフグです。猛毒を持ちます。水深50m以浅で、内湾の磯の周りや砂礫底、海藻の生い茂る場所、汽水域に生息しています。
備考	

No　18



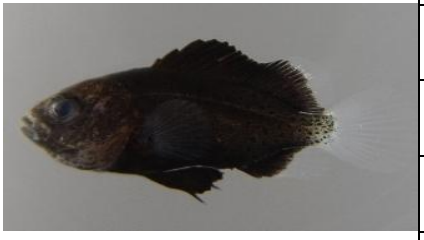
生物名	マゴチ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 カサゴ目コチ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	海底の砂底に腹をつけて生活する底生魚で、あまり動き回らずに平たい体と褐色の体色で砂底に擬態しています。
備考	

No　19



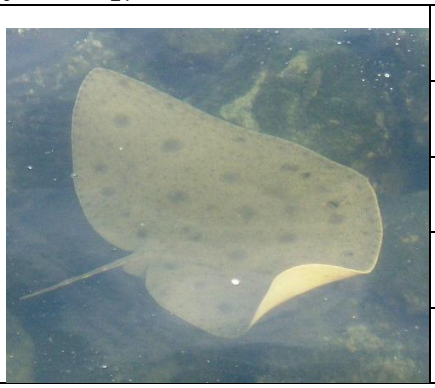
生物名	コトヒキ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 スズキ目シマイサキ科
発見頻度	★★★☆☆
職員のコメント	やや褐色を帯びた銀白色で、緩やかに曲がる3本の黒帯が特徴です。
備考	

No　20



生物名	コショウダイ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 スズキ目イサキ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	成長するにつれ、模様を変えていきます。この写真は幼魚です。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No　　21



生物名	ツバクロエイ
分類	脊椎動物門軟骨魚綱 トビエイ目アカエイ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	体盤の背面には小さな黒い斑点が散在していますが、眼の後方に白い斑点があることもあります。尾部の中央より前に小さな毒針があります。
備考	

No　　22



生物名	アイナメ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 カサゴ目アイナメ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	沿岸の岩礁帯に住んでいるため、防波堤から糸を垂らすと釣れます。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No　　23



生物名	ウロハゼ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 スズキ目ハゼ科
発見頻度	★★★☆☆
職員のコメント	網を持って追いかけると黒く変色します。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No　　24



生物名	アカオビシマハゼ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 スズキ目ハゼ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	河口から内湾の塩分がやや高めの砂地で石が点在するような場所に生息しています。以前はシマハゼと言われていました。
備考	

No　　25



生物名	アシシロハゼ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 スズキ目ハゼ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	体長は8センチに達します。大きいものでは20センチ前後になるため、体は細長いです。腹部に白色帯がでることがあります。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No　　26



生物名	クロサギ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 スズキ目クロサギ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	稚魚は数尾ほどの小さな群れを作り、スーッと直線的に泳いではピタッと止まるという特徴的な泳ぎを繰り返します。
備考	

No　　27



生物名	ショウサイフグ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 フグ目フグ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	毒を持っています。丸みのある個性的な体形におちょぼ口が特徴的。興奮すると水や空気を胃に吸い込んで体を大きく丸く膨らませます。
備考	

No　　28



生物名	サンマ
分類	脊椎動物門硬骨魚綱 ダツ目サンマ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	潮彩の渚に一度迷いこんできました。
備考	

No　　29



生物名	チチブ
分類	脊索動物門硬骨魚綱 スズキ目ハゼ科
発見頻度	★★★★☆
職員のコメント	潮彩の渚では、１年を通してよく見かけます。
備考	

No　　30



生物名	イダテンギンポ
分類	脊索動物門硬骨魚綱 スズキ目イソギンポ科
発見頻度	★★☆☆☆
職員のコメント	カキ殻の中に隠れているため、姿を見つけにくいです。カキ殻や石についた藻を食べます。
備考	

No　　31



生物名	マルタ
分類	脊索動物門硬骨魚綱 コイ目コイ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	主に沿岸部から河川河口部の汽水域に生息しています。寿命は10年ほどと比較的長命です。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No　　32



生物名	アユ
分類	脊索動物門硬骨魚綱 サケ目アユ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	春になると5～10cm程の稚魚となり河を遡上しはじめ、食性も主に岩に付いている藻を食べるように変わり、それに合わせて歯の形状や体色なども変化していき成魚となります。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No　33



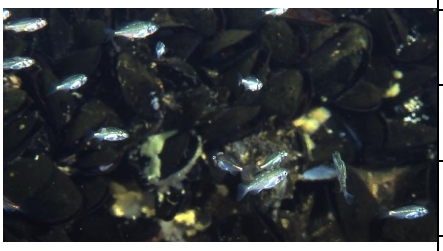
生物名	ドロメ
分類	脊索動物門硬骨魚綱 スズキ目ハゼ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	写真は幼魚です。大きくなると色や模様が変わります。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No　34



生物名	ミミズハゼ
分類	脊索動物門硬骨魚綱 スズキ目ハゼ科
発見頻度	★★☆☆☆
職員のコメント	動きは素早く、すぐに近くの石の下へ逃げこみます。泳ぎが素早いので水中では発見や捕獲が難しいです。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No　35



生物名	メジナ
分類	脊索動物門硬骨魚綱 スズキ目メジナ科
発見頻度	★★☆☆☆
職員のコメント	東日本でオナガメジナ、オナガ、西日本でチャグレ、オナガグレ、オナガグロ、沖縄でクルシチューなどと呼ばれています。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No　36



生物名	サツキハゼ
分類	脊索動物門硬骨魚綱 スズキ目オオメワラスボ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	生息環境には牡蠣などの殻があり、その周辺の中層を潮が上げている時は群泳し、下げている時や夕方にはその殻などに隠れてしまいます。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No　　37



生物名	アナハゼ
分類	脊索動物門硬骨魚綱 カサゴ目カジカ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	ハゼの名前がついていますが、カジカ科の種類で、ウロコはありません。青緑色の口が特徴で身も青みがかっています。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No　　38



生物名	ヒメハゼ
分類	脊索動物門硬骨魚綱 スズキ目ハゼ科
発見頻度	★★☆☆☆
職員のコメント	体長8cm。下あごが上あごより突出しています。体の前半に比べて尾柄が著しく細いのが特徴的です。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No　　39



生物名	アオタナゴ
分類	脊索動物門硬骨魚綱 スズキ目ウミタナゴ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	ウミタナゴと似ていますが尻ビレと背びれの後部には、ウミタナゴには見られない黒いラインがあるのでそれで見分けることが出来ます。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No　　40



生物名	ギンガメアジ
分類	脊索動物門硬骨魚綱 スズキ目アジ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	サンゴ礁域の大型のものはシガテラ毒をもつことがあり注意が必要です。
備考	【写真提供】 神奈川県水産技術センター 工藤主任研究官

No　41



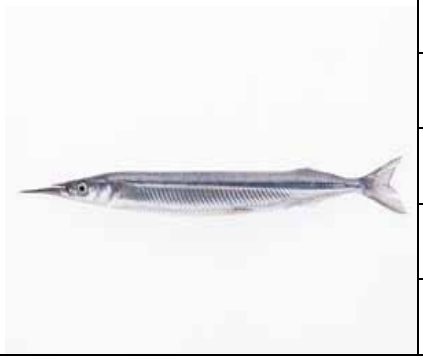
生物名	クロダイ
分類	脊索動物門硬骨魚綱 スズキ目タイ科
発見頻度	★★☆☆☆
職員のコメント	環境への適応力が高く、汚染にも比較的強いため東京湾や大阪湾など、工業地帯の港湾にも多く生息します。
備考	

No　42



生物名	ニノジトビウオ
分類	脊索動物門硬骨魚綱 ダツ目トビウオ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	夏から秋の産卵期に南の海から北上してやってきます。
備考	

No　43



生物名	サヨリ
分類	脊索動物門 ダツ目サヨリ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	口が長いのが特徴的です。
備考	

No　44



生物名	ヨウジウオ
分類	脊索動物門条鰭綱 トゲウオ目ヨウジウオ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	体長が30cmほどになるものもいます。
備考	

No　　45



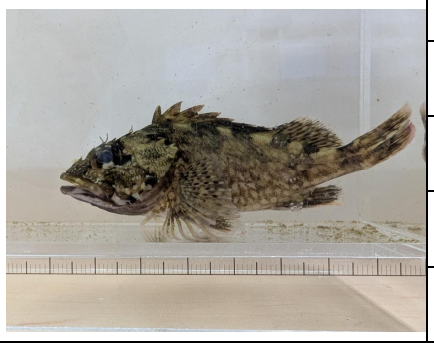
生物名	クロアナゴ
分類	脊索動物門条鰭綱 ウナギ目アナゴ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	発見時の大きさは72cmでした。1．4mに達する成魚もいます。
備考	

No　　46



生物名	イシダイ
分類	脊索動物門条鰭綱 スズキ目イシダイ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	岩礁域に生息します。東京湾奥ではあまり見られません。発見時は5cm未満の幼魚でした。
備考	大人になると、丈夫な歯でウニやフジツボ、貝などを砕いて食べるそうです。

No　　47



生物名	カサゴ
分類	脊索動物門条鰭綱 カサゴ目フサカサゴ科
発見頻度	★☆☆☆☆
職員のコメント	潮彩の渚の岩礁帯に生息しています。体に対して口が大きく、甲殻類やゴカイのなかまをよく食べるそうです。
備考	体と口の特徴から「磯のカサゴは口ばかり」ということわざがあります。